

# エリアウェーブ

峡東教育事務所  
 地域教育支援スタッフ  
 TEL 0553-20-2731  
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。峡東教育事務所のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email :adachi-scje@pref.yamanashi.lg.jp

## 人権のための講演会報告

11月17日(火)、笛吹市いちのみや桃の里ふれあい文化館において、峡東地域教育推進連絡協議会等が主催する「人権のための講演会」が開催されました。講師に元東京都児童相談センター児童心理司で、山脇由貴子心理オフィス代表の山脇由貴子氏をお迎えして「現代のいじめの実態と解決のために～子どもの人権を守るために、今大人のできること～」と題して講演をしていただきました。講演の内容を一部掲載いたします。



いじめは「心のウィルス」であるので、本人が気づかぬうちに感染し、本人の努力だけでは退治できない。また感染すると「集団ヒステリー」の状態になり、その集団の中にいる子は「善」と「悪」を逆転させることで心のバランスを保とうとするので、楽しそうにいじめを行う。現代のいじめにおいては「被害者」以外は全員「加害者」であり「傍観者」はいない。なぜなら、いじめる側は大人に発覚するのを防ぐために何らかの形でクラス全員をいじめに参加させようとし、参加しない子は翌日からいじめのターゲットになる可能性が高い。ターゲットの交替は簡単に起こる。

インターネットによっていじめは変わった。一つめは子どもが匿名性を得たと勘違いするために、気軽にいじめを始められること。二つめに「作り話の噂」を執拗に流すことで、噂がまるで事実であるかのように扱われ、いじめを正当化する根拠になってしまうこと。三つめに「別人になります」ことが可能になり、人を非難したりおとしめることが容易になったこと。四つめに、ネット上での書き込みに対応する人の存在によって、いじめはエンターテインメント化していきエスカレートするということ。

なぜ大人はいじめに気づかないのか。いじめる側の「発覚しないための工夫」が巧妙であるだけでなく、被害者もいじめられていることを必死に隠そうとするから。被害者は、大人に知られることで一層いじめられるという恐怖心を持っている。つまり子どもにとって大人はいじめを解決してくれる存在ではない、相談できる存在ではないということ。

解決のために大人のできること。一つめが被害者の子どもの安全確保。いじめの解決が終わるまで学校を休ませる。いじめと戦う必要はない。二つめは治療環境の整備。いじめによるPTSD(外傷後ストレス障害)の治療のために「怖いことは起こらない毎日」を体験させてあげること。三つめは学校と保護者の話し合い。学校の責任追及ではなく、いじめがない楽しく安全な学校をつくるために必要な話し合いをくり返し持つこと。「我が子を加害者にしないために」というアラームを鳴らしながら多くの保護者に参加してもらってほしい。大人がいじめを解決する姿勢を示すことで、大人の信頼を回復することが重要。

犯罪といじめの境界線は?という質問をされるが、犯罪は法律で決まっている。お金を取れば恐喝。犯罪行為に対してはためらわずに警察に協力してもらうべき。社会のルールを教えるのも大人の責任。学校と警察が協力して悪い結果にはならなかった。

人間の心には、生まれた時から愛情で満たされるべき「愛の器」があって、この器から溢れた分だけ子どもは人に愛を注げる。この器が空っぽだととても苦しいから、物欲や金銭欲など様々な欲求に置き換えて満たそうとするが、この器には愛しか入らないから器が満たされることはない。子どもの問題はすべて愛の問題で、大人の問題なのである。私も、学校の先生方も子どもにとって一つの通過点だが、通過点として愛を注ぐ意味はある。子どもは愛を注いでくれた人を忘れないし、苦しい時に頼る相手を選べる力につながる。そして、子どもが「大人になりたい」と思えるように、元気で明るく幸せにいるのが大人の責任。

### 《参加者の感想より》

- ・最近のいじめや非行の実態について、よくわかりました。かなりショッキングな内容でした。
- ・子どもの安全を確保することがとにかく重要であると実感できました。この人なら相談できると生徒に思ってもらえる教師であることの必要性和重要性が伝わってきました。
- ・子どもは親や大人を鏡として生きている。大人が明るく楽しく前向きに生きる姿を見せることが何よりも大切だということが特に心に残りました。

# U-30放課後プロジェクト

## 山梨市生涯学習課

山梨市生涯学習課は山梨英和大学の学生と共同で、若者の新たなチャレンジを応援できる環境づくりをめざして3つの講座(部活動)を開催しました。〔部活動1〕は10月3日(土)に教育研究家山村裕志さんを講師に迎えて「私のやる気スイッチを探そう!」をコンセプトに、企業での人材評価の経験に基づいた講演とグループでの討議を行いました。〔部活動2〕では10月24日(土)に「西沢渓谷癒やしの旅~新しい自分、探しにでかけよう~」と題して森林セラピスト小野なぎささんを講師に、自然の中を歩きながら「五感」を使ったアクティビティを体験しました。〔部活動3〕は10月25日(日)に「My name is...はもう古い!?海外旅行を楽しむための英会話&マナー」と題して、カナダ出身のステファノ・ヴィエロさんのユーモア溢れる話とグループでの話し合いを通して、「異文化理解」を踏まえたコミュニケーションについて学びました。

部活動1



部活動2



部活動3



## 金融教育公開授業

## 県立笛吹高等学校

10月20日(火)に笛吹高校において金融教育公開授業が開かれました。「農業にかかわる経済学」「日経STOCKリーグを取り入れた株式投資学習」などの授業のほか、山梨中央銀行広報担当者による「金利の実際」を学ぶ授業が公開され、終了後には2年間の金融教育研究の報告会も開催されました。

さらに全校生徒が参加して「高校生のためのマネーセミナー~1枚のTシャツから世の中を考える~」と題した講演会が行われ、フィナンシャルプランナーの洞口勝人氏が、「1枚のTシャツ・1本のお茶から世の中を考え、日本と世界の現状を理解する」=「見える化」することの大切さを、様々な数字をあげながらわかりやすく解説しました。生徒たちは身近なものから世界の経済を見ることができていることに驚きながら熱心に聞き入っていました。



## 産技祭 - ものづくり体験塾

## 県立産業技術短期大学校

10月31日(土)に、県立産業技術短期大学校塩山キャンパスにおいて第17回「産技祭」が開催されました。開祭式のセレモニーにつづいて、学生による模擬店や農業大学校で生産された農産物の販売が行われ、大勢の地域の方や保護者が来校しました。また、小学生を対象にした恒例の「ものづくり体験塾」も開催され、「金属板に自分の名前を加工してオリジナルキーホルダーをつくる」「おもちゃの電車にLEDのヘッドライトを取り付けて走らせる」「餅つきなど日本の伝統文化を体験する」「ボイスチェンジャーをつくる」など4つのコースに多くの小学生と保護者が参加しました。教官の丁寧な説明と学生のアドバイスを受けながら、初めて使う工具に戸惑いつつも「ものづくり」の楽しさに目を輝かしていました。



## 桃花ダイスキマーケット 秋の大収穫祭

## 県立高等支援学校 桃花台学園

県立高等支援学校桃花台学園では、11月28日(土)に桃花ダイスキマーケット秋の大収穫祭を開催し、地域や企業の方、保護者等400人を超える来場者でキャンパスは終日賑わいました。オープニングセレモニーでは太鼓部の演奏が披露されて大きな喝采を浴びていました。マーケットでは生徒が栽培・製造した農産物や花の寄せ植え、パン・製菓や豚汁などが販売され、各テントの前には長蛇の列ができて多くの商品が短時間で完売するほどでした。床の隅々まできれいに磨かれた校舎内にはカフェも設けられ、あちらこちらで生徒たちが元気に真心を込めて接客をする姿が見られました。今年度最後の桃花ダイスキマーケットは2月12日(金)13:30~14:30に開かれる予定です。



# 子ども・若者育成支援強調月間「～いのち輝くみんなの未来～」

青少年健全育成推進甲州市民集会

山梨市子ども若者育成支援推進大会

山梨県では11月1日～30日を「子ども・若者育成支援強調月間」として、「いのち輝く・みんなの未来」をスローガンに、子ども・若者の社会的自立支援の促進や子どもを犯罪から守る取組の推進等の諸事業を市町村とともに集中的に実施しました。

甲州市では11月6日(金)に甲州市民文化会館で「青少年健全育成推進甲州市民集会」を開催し、「家庭の日・青少年を育む日」のポスター・作文・標語の優秀作品の表彰を行うとともに、NPO法人bond place代表小笠原祐司氏が「対話を通じた問題解決～スマホ・インターネットの健全育成の学びの場について～」と題して講演を行いました。

山梨市では11月15日(日)に夢わーく山梨において「地域で見守り育てよう子どもの未来」をテーマに掲げて「山梨市子ども・若者育成支援推進大会」を開催し、「家庭の日」啓発作文コンクール優秀作品の表彰と朗読発表などが行われました。また、山梨厚生病院小児科部長の池田久剛氏が「こどものこころとからだ」と題して記念講演を行い、最後に子ども・若者の健やかな育成と支援を全市一体となって取り組む大会宣言を採択しました。



## 御坂町地区学習会

御坂町PTA連絡協議会・御坂町教育協議会

11月13日(金)に、御坂農村環境改善センターにおいて今年度第2回の御坂町地区学習会が開かれ、保護者・教員、地域の方など140人余が参加しました。開会行事に続いて、山梨県立大学教授・保健センター長の坂本玲子氏が「子どもの心に愛の基地～地域もおとなも元気になろう～」と題して講演を行いました。「子どもはどきどきワクワクする体験をすることで、脳を活性化するドーパミンがたくさん分泌されて脳が発達する」「子育ては親が未完成のうちに行われるので、足りない部分は地域の人たちにやってもらおう」「子どもの前で生き生きした姿を見せると子どもは大人になるのを楽しみにする」など、子育ての重要なヒントをわかりやすく話していただきました。参加者からは「楽しくためになるお話で、あっという間に時間が過ぎた」「子どもをたくさんほめようと思う」などの感想が聞かれ、実り多い講演会となりました。



## 峡東地区父親子育てイベント

峡東地区保育所(園)保護者連合会研修会

峡東地区保育所(園)保護者連合会主催の研修会「父親子育てイベント」が、12月6日(日)に笛吹市いちのみや桃の里スポーツ公園総合体育館で、ヴァンフォーレ甲府で活躍した元Jリーガー須藤大輔さんを講師に迎えて開催されました。第1部「父親を考えるフォーラム」では、須藤さんが「パパの特技を子育てに～ともに楽しみ成長しよう～」と題して講演を行いました。現役時代、子育てに協力することで心がリラックスできるようになり家庭も明るくなったという経験をもとに、父親が「手伝っている」という感覚ではなく、家事や子育てを夫婦で二分してそれぞれが「割と得意なもの」を受け持つ意識が大切であること、特に父親が特技を生かして子どもとスキンシップをとることが有効であることなど、父親へのアドバイスを講演しました。第2部では「ボールを使って深める絆」のテーマで運動教室が行われ、須藤さんの指導で、350名を超える親子が楽しみながら体を動かしていました。



## 第23回春日居ボランティアまつり

平成27年11月28日(土)、春日居福祉会館・あぐり情報ステーション・郷土館において春日居ボランティアまつりが開催されました。開会式に続いて春日居小学校4年生児童によるリコーダーの演奏と合唱が行われ、ボランティア委員会による活動の発表がありました。かすがい西保育所園児は太鼓の演奏を、かすがい東保育所園児はソーラン節を披露しました。各団体や小中学校によるボランティア活動の掲示もありました。いこいの広場では、様々な模擬店が設営され、春日居中学校の生徒57名が開会式から模擬店のお手伝い等、ボランティアとして活躍していました。



## 笛吹市義務教育振興会議

## 笛吹市教育懇談会

12月5日(土)、八代小学校において、「合わせよう顔と顔、つなげよう心と心」～子どもたちの生活習慣を改善する実践を通して～をテーマに、笛吹市義務教育振興会議が開催されました。取組の柱として、「①気持ちのよいあいさつをする②人の話をしっかり聞く③正しい言葉遣いをする④早寝・早起きをしよう⑤通信機器の使い方ルールを作る」の5つ項目が確認されました。実践発表として、笛吹高校の「生徒によるスマートフォンガイドライン作成にあたっての実践発表」と一宮西小学校PTAの「課題解決のための学校と家庭・地域との連携」～「家庭におけるゲーム、携帯電話、スマートフォンの利用ルール」の作成に向けて～と題した発表がありました。グループごとの話し合いも行われ、子どものための課題を改めて共有し、これから進めていく取組の「第一歩」を明確にするための貴重な機会になりました。



## 荒川祐二氏 講演

## 石和中学校・春日居中学校

PTA主催による教育講演会が、10月13日(火)に石和中学校で、11月15日(日)に春日居中学校で開催されました。いずれも荒川祐二氏を講師に迎え、『半ケツとゴミ拾い～一歩を踏み出す勇気～』という演題で実施されました。「自分を変えたい!」との思いで毎朝6時から1人で新宿駅東口のゴミ拾いを始めたこと、その当時の大変な苦労話、続けていくうちに1人のホームレスのおじさんが参加してくれたこと、それから1人また1人と増えていったこと、全国で一斉にゴミ拾いが行われるようになったこと、全世界で30カ国以上のムーブメントに広がっていったことなどを中心に話されました。パワーあふれるお話の中に、笑いかあり、ジーンと心に響く感動がありました。生徒の感想には「自分も変わりたい。変えたい。そのためには小さなことでも何かを始めたい。」などがありました。荒川氏は、昨年1月に開かれた笛吹市青少年育成推進協議会主催の「子ども・若者育成支援講演会」においても講師としてお話をいただきました。



## 手島羽ツ江氏 講演

## 笛川中学校

11月2日(月)、笛川中学校及び笛川中学校PTAでは、会員と生徒を対象に教育講演会を実施しました。スマイルネット山梨代表の手島羽ツ江氏が、「勇気づけのコミュニケーション」と題して講演しました。内容は、「勇気づけ」、「原因よりも目的さがし」、「ある体験を、失敗と解釈・教訓と解釈」、「私の心のめがねどうかしら」、「見方を変えてみる」、「欠点は長所として生かす」、「伸びるコツ」、「聴くことの効果」、「事実ことば→意見ことば」、「前向きな質問へ」、「不完全なる勇気」、「失敗はチャレンジの証、学びのチャンス」、「SOSを出せることも勇気」などのキーワードで話されました。



## 年長児と小学校1年生の交流

## 八幡保育園—八幡小学校

12月17日に、山梨市八幡小学校の1年生児童が八幡保育園年長児を迎えて「なかよしまつり」を開きました。体育館に「だんぼーるめいろ」「もぐらくん」「すーぱーぼーりんぐ」「たのしいくじびき」「たのしいたからくじ」の5つのお店を出して、園児を案内したり遊び方を説明したりしながら楽しい交流のひとときを過ごしました。園児たちは1年生のルール説明をしっかりと聞いて上手に楽しく遊んで、お店でスタンプをついてもらったり、折紙で作った景品をもらって大変喜んでいました。校長先生も一緒になって楽しんでいました。園児が「おにいさん、おねえさんがやさしかったです。」と言ったのに対して、児童は「年長さんが楽しんでくれて良かったです。」というほのぼのとした感想を述べていました。お別れには、体育館の出口でお互いに手を振って元気にあいさつをしていました。保育園の先生方も「今回の交流のおかげで、年長さんたちも来春には安心して学校に通えると思います。」と笑顔でおっしゃっていました。



# 紙工作教室

山梨県教育会笛吹支部・一宮支部／学びの広場ふえふき

退職教職員でつくる山梨県教育会の笛吹支部・一宮支部では、小学生を対象とした紙工作教室を11月22日(日)にスコレーセンターパリオで開催し、60名余の親子が参加しました。教育会の会員が講師になり、折り紙をつかって「尺取り虫」「小鳥の飾り」をつくったほか、竹コプターならぬ「紙コプター」をつかって、高いところからゆっくり落ちてくる紙コプターを手作りの紙コップでキャッチする遊びを楽しみました。子どもたちは、身近な材料で簡単にできる紙工作に熱中して取り組んでいました。終了後、参加者には講師手作りの「番傘」の置物がプレゼントされました。



## すこやか親子講演会

甲州市健康増進課

甲州市では、11月12日(木)に甲州市民文化会館において、市制施行10周年・山梨大学との包括的連携記念事業として「すこやか親子講演会」を開催し、山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座教授で医学博士の山縣然太郎氏が「すべての親子が健やかに心豊かに暮らせる地域づくり」と題して講演しました。妊娠中の喫煙・飲酒が子どもに与える影響や子どもの発達段階ごとの特徴と課題について解説し、とくに子どもは褒められることで社会性が発達するという研究結果について紹介しました。さらに集団の力・社会全体が個人の健康を決定する役割を果たすとして、全ての子どもがすくすく育つ環境をつくるための「甲州市母子保健計画2015-2024」の意義を強調しました。参加した70名余の聴衆は様々なデータに基づく説得力のあるお話に熱心に聞き入っていました。また、会場には、母子保健に関わるこれまでの取組を紹介するパネルも展示されました。



## 甲州市図書館講演会

「東日本大震災を忘れない」

～90名の小さな命を守った、ある保育園のお話～

甲州市立塩山図書館では、東日本大震災復興支援イベントの一環として、岩手県の野田村保育所の園児たちを題材とした絵本「はなちゃんのはやあるき はやあるき」の原画展と絵本の作者宇野京子さんの講演会を開催します。子どもだけでなく大人にも聞いてほしい「自分で自分の命を守ることの大切さ」を伝えるお話しです。

日時 2月21日(日) 10:30～ 会場 甲州市甘草屋敷子ども図書館 定員 30名  
参加申込み 甲州市塩山図書館まで TEL0553-32-1505

## 山梨ことぶき勸学院学生募集

平成28年度学生募集のお知らせ

山梨ことぶき勸学院では平成28年度の学生を募集します。

ことぶき勸学院で学んで新たな生きがいを見つけ、新たな縁・絆をつかって「生涯現役」を実践しませんか。

募集要項 : 各市教育委員会または下記の出願先にあります。(山梨県のHPからもダウンロードできます)

出願期間 : 平成28年2月1日(月)～ 3月4日(金) 土日祝日を除いて午前9時～午後4時

出願先・問合せ : 山梨ことぶき勸学院 甲府市東光寺2-25-1 電話055-233-6947

峡東教育事務所(東山梨合同庁舎) 甲州市塩山上塩後1239-1 電話0553-20-2731

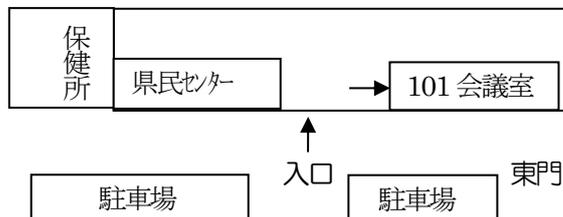
### 山梨ことぶき勸学院 見学・体験会

山梨ことぶき勸学院峡東教室では、実際の講義を見学・体験していただく機会を設けました。

上記問合せ先にお申込みの上、会場までお越しください。

- 1 日時 平成28年2月12日(金) 9:30～12:00  
2月16日(火) 9:30～12:00

- 2 会場 東山梨合同庁舎 101会議室  
合同庁舎駐車場南側に駐車してください



### 1. 新人大会・全国大会予選結果

3年生が引退し、1・2年生中心の新チームとなって初めての大きな大会となる県高等学校新人大大会が10月24、25日に行われました。

優勝：体操部、ウエイトリフティング部（関東選抜大会出場）、  
男子ソフトボール部（全国選抜大会出場）、女子ハンドボール部（関東選抜大会出場）  
準優勝：柔道部

また、全国大会県予選も行われ、各部が素晴らしい成績をあげました。

ラグビー部：全国大会（花園）予選 優勝（全国大会出場 10年連続 45回目）  
男子バスケットボール部：ウィンターカップ県予選 準優勝  
男子バレーボール部：春高バレー県予選 3位

### 2. 県高等学校芸術文化祭開催

11月5日にパレード・グランドステージを中心に、県高等学校芸術文化祭が開催され、15部門に文化局各部が出場し素晴らしい発表等を行いました。

芸術文化祭賞：放送部（アナウンス部門・オーディオピクチャー部門、全国総文祭出場）

教育長奨励賞：物理地学部（SSH地学班）

優良賞：新聞部（全国総文祭出場）、書道部（全国総文祭出場）放送部（関東大会出場）、  
吹奏楽部、音楽部、生物化学部、物理地学部、情報技術研究部

### 3. スーパーサイエンスハイスクール(SSH)活動報告

1年次生 SSH クラスが、国立科学博物館（11/11）、山梨県果樹試験場（12/1）で研修を行いました。また、課題研究（10研究）の成果を県高校芸術文化祭で発表し、地学班「甲府盆地の風と雲について」が、自然科学部門教育長奨励賞を受賞しました。

姉妹提携校キャサリン・パークレイ・スクール（KLB校）と SSH クラスとの合同授業を行いました。1年次生は身近な科学について、2年次生は課題研究の内容を KLB 校の生徒に対して英語でプレゼンテーションを行いました。

12月12日にサイエンスアカデミーが開催され、本校生徒、保護者や近隣の中学生に参加していただきました。テレビでもお馴染みの東京大学の西成活裕教授に「渋滞の科学と成功する勉強方法」の演題で講演していただきました。

### 4. 修学旅行

11月10～13日の3泊4日の日程で、山陽・四国・関西方面への修学旅行を実施しました。1日目は、羽田空港から空路で戦後70年を経過した被爆地広島に入り、原爆ドームや平和記念資料館等を見学し平和学習を行いました。2・3日目は、広島から班別行動で歴史・地理・文学・産業等の学習を行いました。（2日目は倉敷・高松・京都の3分宿）4日目はクラス別行動で京都・滋賀・伊勢・名古屋等を見学し、全員が無事にバスで帰校しました。

### 5. 山梨ことぶき勸学院・日川高校合同展示会

12月4～6日に本校同窓会館2階を会場に、山梨ことぶき勸学院と文化局各部が合同の展示会を開催しました。勸学院からは絵画、俳句、パッチワークとの作品が展示され、本校茶道部がお茶会を催し、勸学院生との楽しい交流の場となりました。

